

アリス新世紀

—永遠の少女が異世界の扉をひらく—

2025.4.4 Fri-4.20 Sun
Bunkamura Gallery 8/



「White Rabbit」球体関節人形

♥奥田 拓郎

幻想世界の生きものをモチーフとし、儚く繊細な人形を制作。2022年公開の映画「耳をすませば」にてバロン人形の制作を担当。

1991 岐阜県生まれ
京都造形芸術大学卒業



♥櫻井 結祈子

セラミックアーティスト。グロテスクと愛らしさが絶妙なバランスで入り交じる空想の「ケダモノ」たちを細部にいたるまで繊細につくり込む。

1993 長野県生まれ
愛知県立芸術大学彫刻領域修了



「うさぎの歌」石粉粘土、他

♠haruhi

独学で球体関節人形の制作を開始。日常と非日常の隙間に潜む孤独や不安を受け止める器として人形を制作。

1984 兵庫県生まれ



「マッドハッターの謝肉祭の為の貴婦人の帽子」皮

◆マンタム

古道具屋アウトローブラザーズの首領であり美術作家。古道具屋としては40年近いキャリアがある。動物の剥製や骨格、アンティーク品を組み合わせ、唯一無二の立体作品を生み出す。



「宇宙の夢を見るアリス」

♥井桁 裕子

人物を中心に立体作品を制作。個々の存在感、身体性、イメージを頭に作る作品は、既存の造形表現にとられない、幻想的かつ耽美的な存在感を放つ。

1967 東京都生まれ



♥経塚 真代

長い首とおかっぱ頭が特徴の少女たち。石粉粘土と岩絵の具からなる独特の風合いの人物像は懐かし気な温もりや哀愁を感じさせる。

1978 札幌生まれ
札幌大谷短期大学 美術科 卒業



リトグラフ集『不思議の国のアリス』より

♣金子 國義

澁澤龍彦らと親交を深め、美德と悪徳、聖と邪の絶妙なバランスで危うくも美しい世界を創り上げた。1960年代以降の耽美系、アングラ・アートの礎を築いた中心人物。

2015 永眠（享年79歳）



「アリス (elegy)」

♠甲 秀樹

少年や青年の瑞々しさ、耽美な世界観は、常に多くのファンを魅了している。絵画制作の他にも、人形作家、ボディペイント、デッサン教室の主宰でも知られ、活動の幅は広い。

1951 三重県生まれ



♣衣 (hatori)

美しく透明感ある女性でありながら、何か欠落しているようなたたずまい。皺や髪にこだわりのマチエールをが人形の息遣いとなる。

京都府生まれ



「それを眺める事を許し給え」カラーージュ

♣松島 智里

カラーージュ作家。そのモチーフと構図は観る者の想像を掻き立て、摩訶不思議な物語の世界へと誘う。

四谷シモン人形学校卒業



「ヴァイオリンうさぎ」

◆三浦 悦子

石塑粘土による球体関節人形を中心に作品を制作。虚ろな目で佇む少女の開放された身体が、独創的な造形美を放つ。

1997 DOLL SPACE
PYGMALIO 入学



「密談テーブル」油彩、アルキド樹脂絵具

♠深瀬 優子

画家の建石修志氏に師事。主に混合技法（油彩、アルキド樹脂絵具）により物語性のある少年少女動物をモチーフとした作品を制作。

神奈川県生まれ